

特集

JA大樹町における酪農支援の取組み

菊池 勝寿

大樹町農業協同組合酪農畜産部
 広尾郡大樹町1条通り1番地

農協の生産額は農産部門20億円(表1)、畜産部門80億円(表2)で概ね100億円である(図1)。酪農の生産基盤は121戸であるが、1,000トン以上のメガファームと言われる農場は、個人経営4戸 法人経営5戸である。メガファームの農場戸数割合は、大樹町7.2% 十勝11.4% 北海道6.7%で全道とほぼ同程度となっている。また、フリーストールの導入状況は、大樹町26戸20% 十勝433戸27%と導入割合では十勝より少ない状況である。更にミルクパーラーの導入については25戸、形態別ではパラレル10戸 アプレスト 6戸 ロータリー 4戸 タンデム 3戸 ヘリーンボーン2戸で十勝と比較して、パラレルとロータリーパーラー形態の導入割合が多い状況にある。

生乳生産量の推移は、平成6年に190戸の生産戸数が、平成12年まで年率3%の割合で減少、その後は1.5%と半減し平成18年で121戸となっている。個人経営の生産総乳量は約6万トンで推移し、組織経営が増産してJA全体の生産量を押し上げている(図2)。この結果JA大樹町の生乳出荷割合は、個人経営7割 組織経営3割となっている(図3)。

JA大樹町としては法人設立を誘導してきたのではなく、平成6年設立のサンエイ牧場や旭共同農場の経営動向が他の地域を刺激し次々と組織が設立された。そして、それぞれの組織経営が、競い合い現在の生産を達成している(表3)。JAと関係機関はそれをいか

表1

農産部門			
豆 類	35戸	249ha	(小豆・大手亡)
馬鈴しょ	38戸	366ha	(主に種子用)
てん菜	58戸	556ha	
秋まき小麦	55戸	537ha	
園芸作物	28戸	175ha	(大根・スイートコーン)
農産物生産額	1,929 百万円		

表2

畜産販売物			
生乳		83,841t	
乳用牛	初妊牛	1,640頭	
	初生とく	1,904頭	
	経産肉用牛	1,401頭	
肉用牛	肉専	3,248頭	
	ホル	1,991頭	
	F1	2,491頭	
馬		31頭	
畜産物販売額計	8,039 百万円		

図1

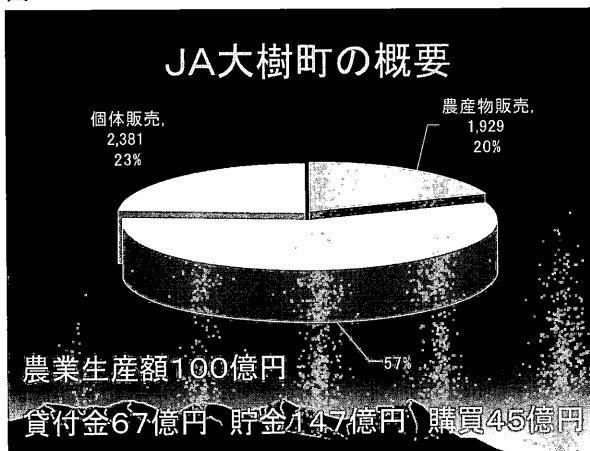


図2

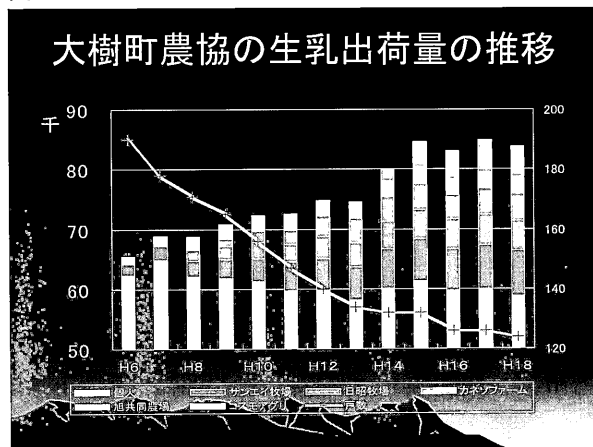


図3

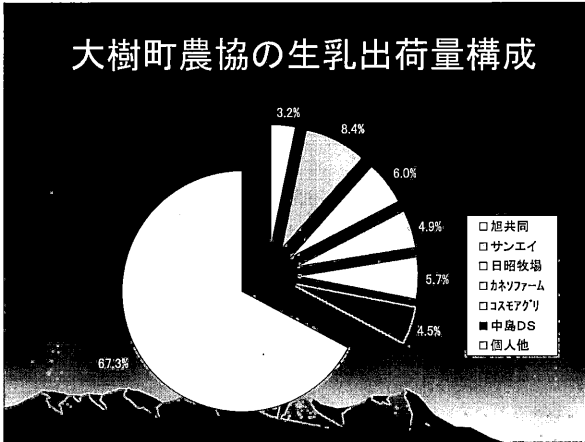


表3

大樹町農協の概要

畜産(酪農)	
牧草地	7,923ha
サイレージ用とうもろこし	994ha
経産牛	10,016頭
未經産	7,201頭
出荷乳量	83,841t (H18)
酪農家	124戸
(平均出荷量 676t)	
(個人平均出荷量 494t)	

図4

組織支援と関係機関の役割分担

項 目	J	A	役 場	普 及
	酪農課	融資課	畜産課	農政センター
設立までの法人化条件整備	◎	○	○	○
長期経営計画・資金計画	○	◎		◎
事業計画	◎	○	◎	◎
法人手続き		◎		○
補助事業関係	◎		◎	
設立後の支援(技術・再投資)	◎	◎		◎

表4

酪農経営支援対策 基盤整備

- 平成6~11年 畜産基盤再編総合整備事業(施設・草地整備)
- 平成9~18年 心土破砕事業(土層改良)
- 平成12~16年 中山間地域交付金事業(草地更新土改資材)
- 平成12~17年 草地生産性向上対策事業(草地更新支援)
- 平成12年 自給飼料増産総合対策事業(マルチ栽培)
- 平成11~13年 国産粗飼料増産緊急対策事業(飼料地増加)
- 平成15年~ 飼料増産受託システム確立対策事業(コントラ)
- 平成15~17年 公社草地リフレッシュ事業(草地更新支援)
- 平成15~19年 畜産担い手育成総合整備事業(施設・草地整備)
- 平成17~21年 中山間地域交付金事業(防疫体制・環境整備)
- 平成18年 広域連携産地競争力強化事業(搾乳関連排水)

図5

メガファームの雇用創出

組織	構 成 員 雇 用					合 計	
	戸数	役員	構成員	後継者	家族 外部 離農		
旭共同	5	4		1	2 3 1	11	
サンエイ	3	3	3	2		9 4	21
日昭牧場	4	4	4	3	1 5		17
カネソファーム	3	4			1 7 1		13
コスモアグリ	4	4	4		2 11 2		23
中島DS	6	6		3		1 (1)	11
合 計	25	25	11	9	6 36 9		96

表5

JAの酪農畜産経営支援対策

- 平成10年 酪農パワーアップ事業 (搾乳牛導入支援)
- 平成13年 牛舎リフォーム事業 (カウコンフォート改善支援)
- 平成13年 生乳増産緊急対策事業(牛群の更新支援)
- 平成14年 黒毛和種資質改良支援事業(借腹受精卵産子)
- 平成15年 バンカーサイロ施設整備対策事業 (粗飼料貯蔵 施設支援)
- 平成15年 コントラ事業 (建設業と連携したシステムの構築)
- 平成16年 乾乳舎建設支援事業 (乾乳管理の強化支援)
- 平成16年 個人施設拡大支援事業(経営システム変更支援)
- 平成18年 黒毛和種繁殖雌牛増頭支援事業
- 平成18年 フォローアップ事業(意欲ある経営への支援)
- 平成19年 黒毛和種施設拡大支援事業(増頭施設支援)

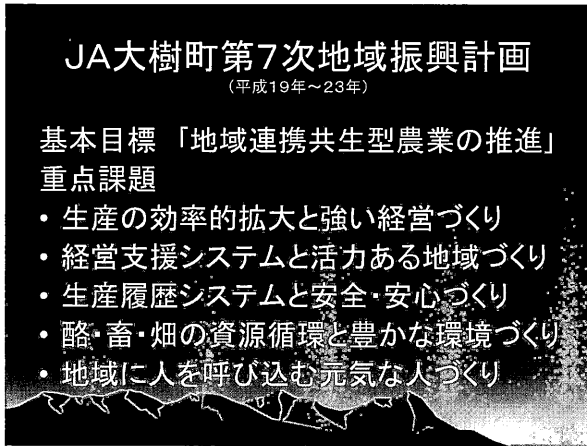
にスムーズに進めるか、組織化の目的協議・事業導入・組織の運営・資金計画などを支援してきた。また、組織設立後も運営、追加投資について関わっている(図4)。

生産量のウエイトは組織経営が徐々に多くなっているが、7割は家族経営が占めており、地域を形成する主は、家族経営であると認識しその支援にも力を入れ、組織と個人経営の「見えないカベ」解消に努めている。そのために、多くの補助事業の導入(表4)とJA独自の支援策を実施した(表5)。

地域の生産を維持するためには、経営体の数ではなくそこに働く労働者数に関係している。組織経営体を育てたことにより54名の雇用を生み出し、地域支援体制が新たに作り出されている(図5)。また、組織経営体の成長により、地域の農地流動化が進んでいる事も、地域への波及効果として大きい。

経営スタイルにこだわらず、地域に人を呼び込むためにそれぞれの経営体を育てていく事が、JAとして重要である。その方法として、飼料を供給するTMRセンター・哺育を分業化する哺育センター、そして粗飼料

表 6



生産収穫支援のコントラクター組織を設立してきました。家族経営を育て、作業を分業化する事により経費を削減し、労働効率を改善する。更に作業を外部化する事により、コスト意識が明確になり、個人では導入できなかった雇用を導入し、経営を変革することが出来た。今後更に地域内に波及する事を検討している。

JA大樹町は、第7次振興計画の柱に5のものづくり（強い経営・活力ある地域・安全安心・豊かな環境・元気な人）をかかげ人・物・金・を地域で循環し、金・体・心にゆとりを持ち、地域の人を減らさない事を目標に取り組んでいる。今後も生産者の要望を受け止め、新たな経営展開を支援してゆきたいと考えている（表6）。

